

保育科・幼児教育科学生による授業評価

—無記名・記名、自己評定・他者評定、成績等からの検討—

岩井 勇 児

大学改革の一つとして、学生による授業評価が導入されたが、単位は欲しいが勉強には興味がない学生が目につく大学の現状で、果たして授業改善に寄与するのか、疑問である。こうした問題意識から、私の担当した授業に対する学生たちの授業評価について、若干の分析を試みたので、ここに報告する。

I 本学平成9年度「教育心理学」に対する授業評価について

(1) 授業の方針等と評価の実施

授業は2年生後期に開講されたもので、非常勤講師として、本学学生をはじめ担当した。授業は、1，2限の2クラスで、各クラス90名ほどであった。(注：本学には平成10年度から専任教員として赴任した。平成10年度の「教育心理学」は後期なので、その授業評価は本稿には間に合わなかった。)

授業内容は、できるだけ日常行動を取り上げて、短大生に分かりやすくする努力をすると共に、受講態度に対しては厳しくしつけた。注意をくり返してもテキスト忘れてたり、私語をくり返すなど、注意の効果がないときは退場を命じたり、遅刻が目には余るときは、出席とは認めないなどして、ともかく授業中は静粛を保った。

授業評価は、本学の方式に従って実施した。すなわち、本学で作成した評価用紙を、試験終了後に学生の代表に渡して、授業担当者は退場して、学生だけの状態で記入し、学生が教務課に届け、教務課は成績提出後に授業担当者に渡す、という方式である。(本学の評価項目及び実施の方式には、本稿で指摘するように、いろいろ問題があり、改善すべきことがあると思う。)

評定値や自由記述のデータを入力するとき気づいたのだが、ほぼ同じ評定値や自由記述が数枚続く、と言った現象が見られた。おそらく、学生同士わいわい話しながら記入しており、個人が独立に評価した結果とは見なしがたい面があった。記入漏れ、未提出等があ

り、結果の分析に使用した被調査数は、2クラス分で167であった。

(2) 評定値の分布と平均値

各項目の5段階評定の度数分布と平均値を、表1にまとめた。数値の大きいほど肯定していることを示す。これを見ると、私語、遅刻に対して厳しかったことが反映されているが、他の項目に対しては、分散が大きく、賛否いろいろである。

表1 授業評価の評定値

(%) N=167

評 価 項 目		1	2	3	4	5	\bar{X}	S
授 業	A1 説明わかりやすくまとまりがある	8.4	12.0	38.3	25.1	16.2	3.3	1.13
	A2 授業は興味深く触発されることが多い	10.8	22.2	36.5	18.6	12.0	3.0	1.15
	A3 熱意があり学生に対して関心が深い	18.0	14.4	37.1	15.6	15.0	3.0	1.27
	A4 声の大きさ、話し方が適当で聞き取りやすい	9.0	16.8	34.7	24.6	15.0	3.2	1.16
	A5 黒板の使い方、または教材の配布が適当である	9.6	33.5	37.1	13.8	6.0	2.7	1.01
	A6 授業を静粛に保つ配慮をしてくれる	4.8	3.0	10.8	13.2	68.3	4.4	1.10
	A7 参考資料、ビデオ等の使用が効果的である	15.6	28.1	38.9	11.4	6.0	2.6	1.07
	A8 授業の開始、終了時間は守られている	4.2	3.0	24.0	17.4	51.5	4.1	1.12
学 生	B1 この授業のために予習を十分に行っている	31.1	34.7	29.9	3.0	1.2	2.1	0.91
	B2 いつも授業を集中して聴いている	4.2	10.2	29.9	24.6	31.1	3.7	1.14
	B3 学んだことをきちんとノートにとっている	2.4	7.2	37.1	24.6	28.7	3.7	1.04
	B4 私語などで他人に迷惑をかけていない	1.2	1.8	13.8	18.6	64.7	4.4	0.88
	B5 欠席、遅刻をしないように心がけている	1.2	2.4	10.2	13.2	73.1	4.5	0.86
	B6 この科目に深い関心をもっている	13.8	14.4	40.7	20.4	10.8	3.0	1.16

(3) 因子分析による評定の構造

そこで、項目間のまとまりを検討するために因子分析をした。それが表2である。

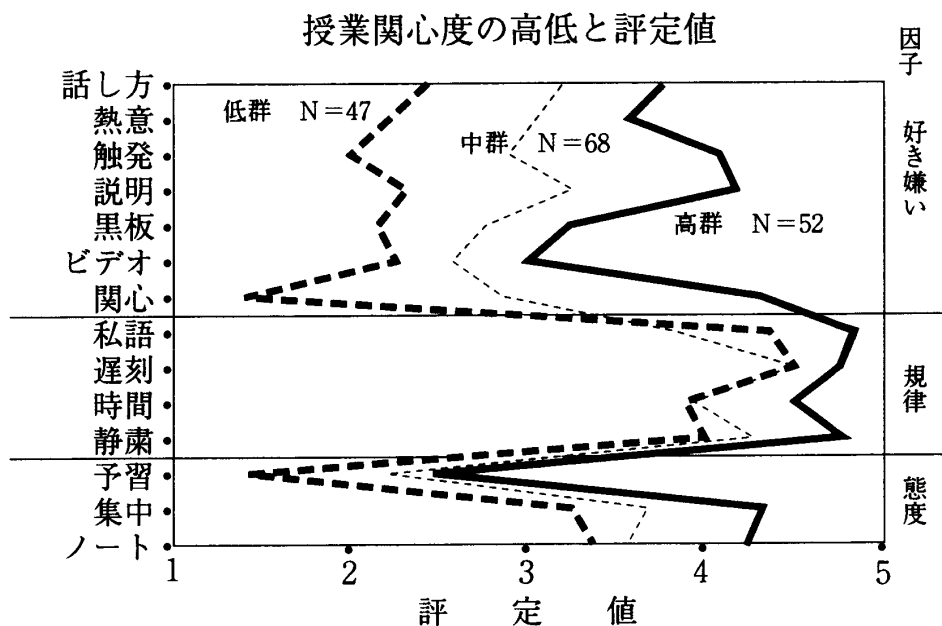
表2 授業評価の因子分析

因子名	授 業 評 価 項 目	I	II	III	h ²
好き嫌い	A4 声の大きさ、話し方が適当で聞き取りやすい	0.770	0.140	0.172	0.710
	A3 熱意があり学生に対して関心が深い	0.764	0.103	0.122	0.738
	A2 授業は興味深く触発されることが多い	0.763	0.074	0.388	0.609
	A1 説明わかりやすくまとまりがある	0.757	0.087	0.359	0.642
	A5 黒板の使い方、または教材の配布が適当である	0.737	0.117	0.093	0.565
	A7 参考資料、ビデオ等の使用が効果的である	0.696	0.163	-0.028	0.564
	B6 この科目に深い関心をもっている	0.596	0.001	0.485	0.512
規 律	B4 私語などで他人に迷惑をかけていない	0.033	0.788	0.262	0.605
	B5 欠席、遅刻をしないように心がけている	-0.041	0.750	0.099	0.545
	A8 授業の開始、終了時間は守られている	0.330	0.699	-0.090	0.737
	A6 授業を静粛に保つ配慮をしてくれる	0.443	0.598	-0.100	0.659
学習態度	B1 この授業のために予習を十分に行っている	0.199	-0.182	0.687	0.690
	B2 いつも授業を集中して聴いている	0.176	0.486	0.686	0.573
	B3 学んだことをきちんとノートにとっている	0.163	0.430	0.669	0.590
	寄 与 率	39.1	14.2	9.2	62.4

第Ⅰ因子は、授業に関する項目と学生の科目への関心の項目がまとまっている。表1の度数分布および自由記述の評価など参考にすると、この因子は、授業を担当する教師に対する好き嫌いを表すと考えられるので、「好き嫌い」の因子とした。第Ⅱ因子は、「規律」、第Ⅲ因子は「学習態度」とした。

(4) 授業関心度の高低による評定値

「この科目に深い関心をもっている」の項目に、1、2を評定したものを「低群」、3を評定したものを「中群」、4、5を評定したものを「高群」として分けて、各項目の評定値を見たのが、次の図である。これを見ると、「好き嫌い」の因子の項目は、見事に評定値が分かれている。すなわち、これらの評定は、教員側の要因と言うよりも、学生側の要因による影響が大きいと見ることができる。



(5) 自由記述について

自由記述を分類した。その主なものを載せておこう。この自由記述を読むと、授業を聞きたい学生には、一応満足を与える授業であったが、単位だけ欲しい学生にとっては、反発の対象になったようである。

① 授業内容など

- ・授業内容は興味深くて、子どものことがよく分かることができました。
- ・授業内容は、私たちの過去に当てはまることが多くて、面白かったです。
- ・内容は興味深かったけど、命令口調はいやです。
- ・口は悪いし、カチンとくることがあります。凶星なので反論できません。

- ・今は結構好きな先生です。その調子で頑張ってください。

② 静粛・私語について

- ・授業中の私語に対して、厳しくして下さるので、学びやすい環境ができて、嬉しかったです。
- ・この授業しか私たちは静かでないので残念です。
- ・静粛を保つてくれたが、あまり静かすぎて、かえってストレスがたまった。
- ・一部がうるさい度に怒鳴るのはやめてほしい。
- ・授業内容を友達と話すときぐらい、おしゃべりを許して欲しい。
- ・1時間半も静かにしていることはできない。

③ 厳しさに対する反発など

- ・学生を馬鹿にしている発言が多い。
- ・学生を静かにさせたって、全員集中なんか絶対にしないのだ。
- ・しつけがなっていない、といわれると親を馬鹿にされたような感じがする。
- ・押しつけられる空気は嫌いです。

④ 授業中の行動などへの注文

- ・生徒にしつけがなっていないというけれど、机の上に座って話をするのは辞めて欲しい。
- ・黒板の字がうすくて、くだけて、後ろの方はよく見えない。
- ・テキストを読ませているときに、出席をとるのは、集中して読めないなので、やめてほしい。
- ・どうしても用事があって、遅くなったのに、遅刻にしないとと言われて、ものすごく腹が立った。

(6) 授業担当者としての感想

① 学生の授業評価について

学生を静粛にさせて授業するために、膨大なエネルギーを投入してかなり迫力のある授業したつもりである。勉強したい学生からは、それなりの評価が得られた。勉強したくない学生の、無責任な、我が儘な評価には、腹が立つし、教員の志気を失わせるものがある。

大学教育を成り立たせなくする学生の身勝手な不満などは、無視しないと、授業は成立しなくなる。大学の授業で、こうした学生の評価を気にしていると「悪貨が良貨を駆逐する」ことになりかねない。

② 評価項目について

評価項目の中には、私の授業と無関係な項目（例えば、私はビデオなど使用しない）や、ひとつの項目に複数の概念があって意味がはっきりしないの項目、などがある。したがって、私の授業に関して学生が何を考えているのか、評定値から把握できない場合がある。評価項目は、改善の余地がある。

③ 大学の授業目的は勉強させること

期末試験の成績を見ると、予想していたよりは、まじめに勉強して答案を書いていた。したがって、こうした評定は、成績との関係を見ないと、授業改善には役立たない。学生の反発があっても、学生が勉強したとすれば、授業目的を達したことになる。逆に、学生の授業評価が高くても、学生が勉強しなければ、無意味である。

Ⅱ A短大幼児教育科平成10年度「発達児童学Ⅰ」に対する授業評価について

(1) 問題と目的

授業評価は、成績と無関係に調べても意味がないと思うので、授業評価と成績との関係を調べたい。そのためには、記名調査が必要である。また、無責任な評価を防ぎ真面目な回答を得るためには、記名調査の方がよいと思われる。しかし、一般に無記名のほうが本音の回答が得られ、記名は見かけをよくするなど回答に歪みが入るとされている。

一方、これまで知能や性格の遺伝に関する調査では、自己評定（あなたはどうか）させた場合は遺伝を肯定する割合が低く、他者評定（世間の人はどう思うか）の場合は、遺伝を肯定する割合が高い、という結果が得られた（岩井勇児 1996,1997,1998）。これらの結果を種々検討して、他者評定の方が本音に近いのではないか、と考えている。

そこで、授業評価に対して、記名と無記名、自己評価と他者評価を組み合わせると、記名の自己評価が、よく見せようとする効果が働くから、授業評価が甘くなり、無記名の他者評定が授業評価が厳しくなる、と予想される。そして、記名の他者評定ぐらいが、案外正当な評価が得られるのではないかと予想した。

したがって、この調査の目的のひとつは、授業評価と成績との関係を調べることであり、もう一つは記名と無記名、自己評定と他者評定などを比較検討することである。

(2) 授業の状況と評価の方法

① 授業の方針と授業の状況

この短大には、非常勤講師として20年余り勤めており、1年生前期の「発達児童学Ⅰ」を担当している。授業の方針は、基本的に本学のところで述べたのと同じで、授業態度に関するしつけは、かなり厳しいほうである。

今年度は、短大生向けのテキスト『子どもと喜び悲しむ心理学』を使用した。かなり図表や写真をたくさん入れ、小見出しも沢山つけて読みやすくした。私一人で作成したものである。また、幼児教育科の学生数が減り、従来120～130名ぐらいの授業が、100名ほど

の授業になった。

テキストの改善、学生数の減少、という要因によるのか、同じ授業なのに、従来ほど毎回のよう私語を注意しなくてもよい状態で、例年になくやりやすい授業であった。ただし、静かにしていると眠くなるのか、居眠りが目立った。

② 調査票の作成

評価項目は、私の授業目標、および本学・愛知教育大学・岡崎女子短期大学などの授業評価項目を参考に、25項目作成した。それぞれについて、「わたしは」（自己評定とする）と「クラスの多くの人たちは」（他者評定とする）の2通りの5段階評定を求めた。自由記述として、「受講者としての反省」「授業の感想・要望」を書く欄をもうけた。また、フェイスシート項目として、入試、志望動機、適性などについて項目を用意した。（末尾に記名の調査票を添付した。）

③ 授業評価の実施

前期の授業が終了する一週間前に、無記名の調査を実施した。教示・回収は私が行った。授業の最終回に記名の調査を行った。再度調査をすることについては「質問紙調査法の研究のために、無記名と記名の比較検討をしたい」と簡単に説明した。教示・回収は無記名の場合とほぼ同じにした。

無記名と記名で受講者は同じだが、欠席者が違うため、データ数は、無記名96、記名97であった。

(3) 無記名と記名の比較

無記名、記名それぞれの自己評定、他者評定の平均と標準偏差を求めて、無記名自己評定の評定値の大きい順に項目を並べたのが表3である。

表3を概観すると、評定の平均値は、表1の本学の場合よりかなり高く、授業に対して好意的であり、真面目に受講したと回答している。実際に授業場面の感じでも、本学の場合よりもかなりよい雰囲気、やりやすかったのは事実である。

この表から、記名と無記名の平均値を比較すると、自己評定、他者評定いずれの場合も、有意差が見られた項目はごくわずかであった。自己評定では、「板書はわかりやすい」「板書はノートに」「予習・復習」の3項目で、いずれも記名のほうが評定値が大きい。他者評定では、「意欲的」「板書はノートに」「予習・復習」の3項目で、いずれも記名のほうが評定値が大きい。自己評定、他者評定に共通の2項目は、学生の反省の項目である。

したがって、大まかにいえば、無記名と記名では、授業評価にそれほど違いがない、とあってよい。これは、最初の予想とはかなり違っていた。

(4) 自己評価と他者評価の比較

自己評価と他者評価の平均の差の検定を行い、表3の右の欄に示した。これをみると、かなりの項目で有意差が見られた。

自己評価と他者評価について、これまでの調査では、自分が認めたくないような事項については、自己評価よりも他者評価の方が肯定的で、自分が認めたいことは、他者評価よりも自己評価の方が肯定的と言う傾向が見られた。ここでも、ほぼ同様な傾向が見られた。

この調査では、記名と無記名に差が見られなかったもので、当初予想していた、記名・無記名と自己評価・他者評価を組み合わせる分析は、中止した。

表3 項目別平均と標準偏差

評 価 項 目	無記名 N=96		記名 N=97		無記名 自己と 他者	記 名 自己と 他者
	自己評価 \bar{X} SD	他者評価 \bar{X} SD	自己評価 \bar{X} SD	他者評価 \bar{X} SD		
22. 遅刻しなかった。	4.77 0.77	3.80 0.87	4.46 0.83	3.85 0.75	>>	>>
23. 黙読のときテキストをまじめに読んだ。	4.64 0.73	3.96 0.86	4.57 0.64	4.06 0.81	>>	>>
5. 私語に厳しい。	4.19 1.24	4.47 0.97	4.43 0.96	4.58 0.85	<<	
8. 授業の開始時間は守る。	4.14 0.97	3.95 0.90	4.21 0.80	3.96 0.84	>	>>
7. テキストはわかりやすい。	4.05 0.87	3.82 0.87	3.92 0.73	3.72 0.77	>>	>>
11. 実践的で役立つ内容である。	4.04 0.88	3.86 0.95	3.94 0.84	3.85 0.88	>>	
17. 私語をしなかった。	3.92 1.02	3.67 1.03	3.90 0.95	3.54 0.95	>	>>
4. 説明はわかりやすい。	3.83 0.93	3.61 0.83	3.73 0.76	3.52 0.74	>>	>>
10. 授業の進み方は適切である。	3.81 0.80	3.65 0.82	3.76 0.72	3.66 0.78	>	>
1. 授業内容には興味がある。	3.76 0.83	3.34 0.84	3.69 0.75	3.43 0.76	>>	>>
24. 全体として、理解しやすい授業だった。	3.72 0.91	3.55 0.84	3.62 0.71	3.51 0.69	>	
12. 今までと違った考え方に気づいた。	3.66 1.13	3.34 0.96	3.63 0.92	3.46 0.82	>>	>
18. 居眠りしないようにした。	3.65 1.22	2.97 0.97	3.76 1.02	3.11 0.84	>>	>>
16. 説明はよく聞いていた。	3.58 0.90	3.49 0.95	3.68 0.69	3.46 0.74		>>
2. 話し言葉は聞き易い。	3.49 0.96	3.38 0.90	3.45 0.91	3.43 0.85		
14. 全体として満足である。	3.28 0.96	3.17 0.84	3.42 0.73	3.27 0.68		>
3. 授業は意欲的である。	3.25 0.74	2.89 0.84	3.33 0.67	3.18 0.65	>>	
13. 自分を見直す機会となった。	3.20 1.09	3.10 0.93	3.26 0.88	3.21 0.82		
15. 発達児童学 I に関心があった。	3.19 1.08	2.98 0.86	3.23 0.87	3.08 0.79	>>	>
9. 欠席・遅刻に厳しい。	3.18 1.22	3.41 1.14	3.38 1.14	3.45 1.02	<<	
20. 板書はノートに写した。	2.70 1.43	2.64 1.08	3.15 1.24	3.01 0.92		
19. テキストの授業範囲外も読んでみた。	2.66 1.29	2.34 0.94	2.65 1.16	2.57 0.83	>>	
6. 板書はわかりやすい。	2.29 0.94	2.47 0.93	2.55 0.71	2.63 0.71	<<	
21. 先生が話すこともノートにとった。	2.15 1.22	2.39 0.90	2.44 1.08	2.62 0.83		
25. 予習・復習するように努力した。	1.54 0.77	1.98 0.85	1.90 0.87	2.26 0.81	<<	<<

注：>>は1%、>は5%で有意。不等号は数値の大小を示す。

(5) 記名自己評定の因子分析

項目間のまとまりを見るために、因子分析（主成分分析）を行った。記名・無記名×自己評定・他者評定の4種類のデータについて因子分析を試みたが、評定値が高く分散が小さい項目が多くて、相関関係が不安定なためか、因子が解釈できないものもあった。結局、記名自己評定の場合が、比較的わかりやすい因子であった。このことは、記名自己評定が、回答として安定していることを示しているのかもしれない。したがって、記名自己評定の因子分析のデータを使うことにした。

表4は、各因子の因子負荷量の大きい順に並べてある。なお、「自分を見直す機会」のように2つの因子に負荷量が高い項目は、数値の大きい方の因子に分類した。ただし、解釈の時は、それぞれの負荷量を考慮した。各項目の因子負荷量から、第1因子は「授業満足度」、第2因子は「学習態度」、第3因子は「受講態度」、第4因子は「好奇心」、第5因子は「厳しさ」と命名した。

表4 記名自己評定因子分析

N = 97

評 価 項 目	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	h ²
14. 全体として満足である。	0.82	0.02	0.15	0.01	-0.09	0.71
24. 全体として、理解しやすい授業だった。	0.78	0.14	0.04	0.06	-0.08	0.64
4. 説明はわかりやすい。	0.75	-0.04	-0.03	-0.08	-0.14	0.58
11. 実践的で役立つ内容である。	0.73	-0.05	0.22	0.19	0.06	0.62
1. 授業内容には興味がある。	0.71	0.00	0.15	0.07	-0.07	0.54
7. テキストはわかりやすい。	0.70	0.13	-0.20	-0.03	-0.01	0.54
10. 授業の進み方は適切である。	0.67	0.13	0.10	-0.30	0.18	0.59
12. 今までと違った考え方に気づいた。	0.64	0.14	0.00	0.50	0.16	0.70
2. 話し言葉は聞き易い。	0.57	0.07	0.02	-0.19	0.05	0.37
15. 発達児童学 I に関心があった。	0.47	0.21	0.12	0.02	0.31	0.38
21. 先生が話すこともノートにとった。	0.11	0.80	0.06	0.05	-0.04	0.66
20. 板書はノートに写した。	0.16	0.70	0.15	-0.08	-0.06	0.55
25. 予習・復習するように努力した。	0.03	0.62	0.09	0.11	-0.07	0.41
6. 板書はわかりやすい。	0.12	0.53	-0.21	-0.44	0.11	0.55
18. 居眠りしないようにした。	-0.08	0.10	0.72	0.22	0.09	0.59
16. 説明はよく聞いていた。	0.20	0.34	0.69	0.14	-0.08	0.65
3. 授業は意欲的である。	0.40	0.19	0.57	-0.11	-0.10	0.54
23. 黙読のときテキストをまじめに読んだ。	0.30	-0.07	0.55	-0.05	0.27	0.48
22. 遅刻しなかった。	-0.16	-0.04	0.44	-0.25	-0.25	0.35
13. 自分を見直す機会となった。	0.56	0.19	0.04	0.61	-0.12	0.74
8. 授業の開始時間は守る。	0.22	0.19	0.13	-0.58	0.09	0.45
19. テキストの授業範囲外も読んでみた。	-0.02	0.31	0.27	0.48	0.22	0.45
5. 私語に厳しい。	-0.03	-0.14	-0.05	0.04	0.81	0.69
17. 私語をしなかった。	0.01	-0.18	0.47	-0.20	0.53	0.58
9. 欠席・遅刻に厳しい。	-0.15	0.41	-0.03	-0.03	0.45	0.40
固 有 値	6.08	2.43	2.01	1.77	1.46	13.75
寄 与 率	24.30	9.70	8.00	7.10	5.90	55.00

(6) 授業評価（因子得点）と成績との関係

授業評価と成績との関係を調べるために、ここでは因子得点を比較することにした。ほかに各評価項目の平均値あるいは相関等のデータでも検討したが、ここでは割愛する。

まず、記名自己評定(N=97)から、期末試験の成績の平均と標準偏差によって、下位群(N=32)、上位群(N=33)を選んだ。そして、両群の因子得点の平均と標準偏差を求めて比較したのが、表5の左側である。因子得点は、全体として平均0、標準偏差1である。この表を見ると、下位群はすべてマイナスで上位群はすべてプラスとなっているが、有意差のあったのは「受講態度」だけである。

次に、成績を基準変数、各因子得点を説明変数と設定して、重回帰分析を行ってみた。その結果が、表5の右側である。この結果を見ると、成績を説明する変数として有意なのは、「受講態度」と「授業満足度」である。

この2つの面からの分析を見ると、成績に最も関係しているのは、「受講態度」である。この因子の負荷量の高い項目は、「居眠りしないようにした」「説明はよく聞いていた」「授業は意欲的である（注：この項目は教師の態度の項目のつもりだったが、学生は受講態度として理解したようだ）」「私語をしなかった」「遅刻しなかった」である。

「授業満足度」もある程度成績に関係しているが、それよりも、学生の「受講態度」の方が関係が強いのは、興味ある結果である。

表5 成績と因子得点

成績上位群下位群の平均値の比較					重回帰分析		
	下位群 N=32		上位群 N=33		t 検定	β	t 検定
	\bar{X}	SD	\bar{X}	SD			
F 1 授業満足度	-0.22	1.15	0.12	1.02		0.20	*
F 2 学習態度	-0.09	0.89	0.13	1.05		0.01	
F 3 受講態度	-0.40	1.09	0.25	1.01	*	0.31	**
F 4 好奇心	-0.06	0.69	0.18	1.23		0.14	
F 5 厳しさ	-0.07	0.99	0.14	0.98		0.09	

(7) 「発達児童学 I への関心」と授業評価

本学の場合に、「授業への関心」によって、授業評価が異なることを見てきた。そこで、これと同様の分析を試みた。すなわち、「発達児童学 I に関心があった。」という項目に対して、「関心なし（評定1,2）」と「関心あり（評定4,5）」を選んで、平均を比較してみた。それが表6である。ただし、「関心なし」の度数は「関心あり」の半分にも満たなかった。このこと自体が、このクラスの授業がやりやすかった一因でもあると思う。

表6を見ると、図で示した本学の場合とほぼ同様の傾向が見られる。すなわち、「関心

なし」よりも「関心あり」のほうが、因子得点においても、項目においても評定値が高い傾向が見られる。また、期末試験の成績も、「関心あり」のほうがよい。

したがって、授業評価は、学生側の構えによって影響を受けると言ってよいだろう。

表 6 「発達児童学 I への関心」と授業評価

評 価 項 目	関心なし N=15		関心あり N=34		t 検定
	\bar{X}	SD	\bar{X}	SD	
1. 授業内容には興味がある。	3.18	0.81	4.06	0.65	<<
2. 話し言葉は聞き易い。	3.35	1.00	3.74	0.86	
3. 授業は意欲的である。	2.88	0.70	3.62	0.60	<<
4. 説明はわかりやすい。	3.53	0.72	3.97	0.80	
5. 私語に厳しい。	4.41	0.94	4.53	1.02	
6. 板書はわかりやすい。	2.35	0.70	2.65	0.73	
7. テキストはわかりやすい。	3.76	0.44	4.24	0.74	<<
8. 授業の開始時間守る。	4.12	0.78	4.26	0.93	
9. 欠席・遅刻に厳しい。	3.06	1.39	3.21	1.15	
10. 授業の進み方は適切である。	3.41	0.71	4.12	0.64	<<
11. 実践的で役立つ内容である。	3.35	0.79	4.35	0.73	<<
12. 今までと違った考え方に気づいた。	3.00	0.94	4.00	0.92	<<
13. 自分を見直す機会となった。	2.76	0.90	3.50	0.90	<<
14. 全体として満足である。	2.82	0.81	3.79	0.64	<<
15. 発達児童学 I に関心があった。	1.88	0.33	4.21	0.41	<<
16. 説明はよく聞いていた。	3.18	0.73	3.79	0.73	<<
17. 私語をしなかった。	3.76	1.03	4.03	0.90	
18. 居眠りしないようにした。	3.41	1.28	3.79	0.95	
19. テキストの授業範囲外も読んでみた。	1.76	0.97	2.59	1.23	<<
20. 板書はノートに写した。	2.47	1.33	3.38	1.30	<<
21. 先生が話すこともノートにとった。	1.88	0.86	2.65	1.12	<<
22. 遅刻しなかった。	4.65	0.79	4.50	1.05	
23. 黙読のときテキストをまじめに読んだ。	4.18	0.95	4.65	0.49	
24. 全体として、理解しやすい授業だった。	3.29	0.59	3.91	0.79	
25. 予習・復習するように努力した。	1.53	0.62	1.94	0.95	
期末試験成績	49.71	20.73	61.32	16.25	<<
授業満足度	-0.67	0.96	0.66	0.84	<<
学習態度	-0.65	0.93	0.11	1.08	<
受講態度	-0.59	1.27	0.05	0.95	<
好奇心	-0.36	1.11	-0.02	1.04	
厳しさ	-0.42	1.09	0.25	1.09	<

注：<<、<、は、1%、5%水準の有意差を示す。

(8) フェイスシート項目との関連について

フェイスシート項目について、度数分布を調べたのが表 7 である。本学への志望は「第

一志望」が80%、志望動機は「ぜひ幼稚園・保育園の先生になりたい」が90%、性格・適性では、「幼稚園・保育園の先生にむいている・どちらかといえばむいている」が60%、本学への受験は「自分で決めた」が76%、入学して「満足・まあまあ満足」が83%、であった。

これらの度数分布は、予想していたよりも、かなり望ましい方向に偏った分布であった。

そこで、これらのフェイスシート項目を、「第一志望」とその他、「先生になりたい」とその他、「むいている」とその他、「自分で決めた」とその他、「満足」とその他、に2分して、授業評価（因子得点）との関連を調べた。入試に関しても調べたが、同じように関連性はなかった。

因子得点と各フェイスシート項目との関係を因子得点の平均値の差で調べたが、いずれも有意差は見られなかった。また、評価項目の水準で比較した場合は、フェイスシート項目によって、いくつかの評価項目に差がみられたが、一貫した傾向を掴むことは出来なかった。

(9) 無記名の自由記述

先に調査した無記名の自由記述についてみると、「受講者としての反省」「授業の感想・要望」、それぞれおよそ半数の学生が記述していた。それらの記述を、ひとつの意味を表すと思う短文に区切って、すべてデータベースに書き出して、それを分類した。若干羅列的であるが、このように並べてみると、学生の思っていることが、なんとなく伝わってくるような気がする。

【受講者としての反省】

① 居眠り

- ・時々寝てしまいました。ごめんなさい。
- ・たまに居眠りをしていた。
- ・金曜日の1限目で、とても眠たくなってしまうことがありました。

表7 フェイスシート項目の度数分布 N=97

項目	選 択 肢	度数	%
志望順位	無回答	2	2.1
	第一志望	77	79.4
	第二志望	11	11.3
	第三志望以下	7	7.2
将来希望	幼・保の先生になりたい	87	89.7
	先生・企業どちらでも	6	6.2
	一般企業	1	1.0
	その他	3	3.1
性格・適性	むいていない	6	6.2
	どちらともいえない	32	33.0
	むいている	59	60.8
受験の影響	自分で決めた	74	76.3
	親や家族の薦め	5	5.2
	進路指導	13	13.4
	その他	5	5.2
入学満足度	不満足	6	6.2
	どちらともいえない	11	11.3
	満足	80	82.5

注：性格・適性、入学満足度は5段階を3段階に纏めた。

- ・一回だけ眠ってしまいそうになった。
- ・居眠りしてしまうことがあった。
- ・時々寝てしまうことがあった。
- ・居眠りをしてしまった。
- ・少し居眠りをしてしまった。
- ・寝てしまうことがあって、聞きたい部分を聞いていなかった。
- ・たまに居眠りをしてしまった。
- ・寝てしまうことがあった。
- ・居眠りをしないようにしていたが、無意識のうちにしてしまうことがあった。
- ・休まずに出たけど居眠りしたくなった。でも寝ないで頑張った。
- ・この授業は、1限目なので、いつも頭が起きていなく、出欠席のとき元気良く返事ができなくて残念でした。

② 授業中の態度

- ・よく頑張った。
- ・私語をしてしまったことを反省しています。
- ・自分の考えに合わないことは、そういうこともある、ぐらいでほとんど聞いていなかった。
- ・ちゃんと話が聞けなかった。
- ・もっと意欲的に取り組まないと行けないかも。
- ・先生の話ノートにとるなど、意欲的に授業をしなければいけなかった。
- ・1時間、集中しきれない時があった。
- ・ぼーっとして聞いているときがあった。
- ・たまにぼーっとして聞いているときがあった。

③ ノート

- ・ノートがうまくまとめられなかった。
- ・最初からきちんとノートをとるべきだった。
- ・私語もしなかったし、居眠りもしなかったが、ノートもとらなかった。
- ・先生の話していることをノートに書こうと思っても、何をかいていいのやら分からなかった。
- ・ノートをとらず、メモを取ることもなかったので、メモぐらいっておけば良かった。
- ・先生の話していることを、教科書に書き込めると良かった。
- ・大事なところをもっとチェックしておけば良かった。
- ・先生の話をもっとノートにとっておけば良かった。
- ・テキストを見て、先生の話聞くことが多かったので、ノートをとらなかった。
- ・先生の話をとれば良かった。

- ・テキストに線を引くだけでなく、大切なことはすみにでもメモしておけば良かった。
- ・先生が話していたことを、メモに取っておけば良かった。

④ 予習復習その他

- ・もっと予習復習をすれば良かった。
- ・復習しなかった。
- ・教科書をもっと読み込まなければいけないと思った。
- ・予習復習をきちんとしておけばよかった。
- ・この教科書すべてが大切に見えてしまい、どの部分が重要なのか分からなくなってしまうことが多かった。
- ・欠席してしまったこと。

【授業の感想・要望】

① テキスト・授業内容

- ・テキストがわかりやすく、楽しい内容でよかったですと思います。
- ・先生自らテキストを作ったのは、本当にすごいと思った。
- ・教科書が先生の作ったもので説明してくれたので、内容もわかりやすかった。
- ・テキストも先生の体験談が載っていて、良かったです。
- ・テキストはわかりやすい。
- ・テキストがすごくわかりやすい。具体例がおおくてわかりやすい。でも説明がいまいちだと思います。
- ・テキストや説明もとてもわかりやすくて良かったです。
- ・実際にあったことがテキストに書いてあって、興味をもって良かったです。
- ・大変わかりやすいテキストと説明だから、授業は苦痛ではなく、聞き易かった。
- ・具体例などもあって、理解しやすかった。
- ・すごくわかりやすい授業だった。
- ・実践的なことは面白かった。
- ・先生の子どもについての、本当にあった体験談がいっぱいあって、分かりやすいものが多かった。
- ・授業の内容は、実際に先生の息子さん方をもとに作成してある本なので、すごくわかりやすかった。
- ・先生の実体験が書かれた教科書だったので、わかりやすいと思った。
- ・先生の体験を交えた授業だったので、とてもわかりやすかったと思います。
- ・先生の子どものことが具体例をあげて話してくれたので、わかりやすかったと思う。
- ・授業内容は面白かった。

- なかなかわかりやすい授業で良かったと思います。
- 先生が息子さんに「ぐりとぐら」の本を読んでいるテープを聴いて、実際に子どもがどんなことを言い、反応するのかわかり、とても良かったです。
- ぐりとぐらの朗読テープは、とても面白かったです。機会があればもう一度聞いてみたいです。
- ぐりとぐらのテープはすごく面白かった。
- ぐりとぐらのカセットテープは面白かった。
- いくつかの知りたいことが、分かったような気がする。
- 自分の小さい頃のことを思い出してみても、私もよくダダをこねる子だったので、なんとなくわかるところもあった。
- 今まであまり分かっていなかった子どものことが分かって良かったです。
- 先生の考えと自分の考えとを比較できて、見直す機会ができたのはよかった。
- この授業で与えられた知識は、保育者としてだけでなく、将来自分の子育てにも、大きなものだった。
- 授業内容もとてもためになり、これから役に立つことがあって良かったと思います。
- 今まで正しいと思っていたことが、実は間違った考えであることや、子どもがどういうときにこうすればいいんだ、ということが分かったりして、勉強になった。
- 私たちが、専門職に就いたり、母親になったりする上で、とてもためになる知識をえられたと思う。
- 自分自身小学生までおねしょ、指しゃぶりしたので、大変興味ある授業だった。
- 先生と自分の考えを比較できたが、他の考えを聞きたかった。
- 厳しかったけど、それだけにやりがいのある授業だったから、良かったです。

② 私語への注意など

- 私語ができなくて辛かったけど、静かなので授業は聞きやすくて良かったと思う。
- 授業中とても静かで、授業ができて嬉しい。
- うるさすぎて先生の声が聞こえないような授業があるけれど、この授業は聞き易かった。
- 静かに集中して、授業を受けることができて、良かったです。
- 授業中静かで聞き易かった。
- 私語に厳しかったのが、最初は辛かったが、馴れてくると有り難かったです。
- 授業中の私語は、個人的にはいいかもしれないけれど、周りのことを考えると、注意して良かったと思います。
- 授業の最初に一言叱って、始められると意欲が全くなくなるので、やめて欲しい。
- 自分がしゃべらないのに、全体的に説教されるとすごく嫌な気分になります。それぞれ個人が気を付けてくれることを願ってやみません。

- ・私語のことで、クラスと名前を聞いて立たせたが、他の子の時はクラスと名前を聞かず、立たせもしなかったの、不愉快だった。怒るならみんな同じ怒り方をした方がよいと思います。

③ 授業のやり方

- ・授業が少しかた過ぎる気がします。
- ・もっと楽しい授業にしてほしい。少し休憩の時間をとったり、息抜きさせて欲しい。
- ・居眠りをしたが、これは先生の授業のやり方にも問題があると思う。（笑いが無いから面白くない）
- ・笑いが無い授業だったので、面白くなかった。
- ・今の授業のやり方は、一方的のような気がします。もう少し、生徒全体を見たらどうですか。
- ・先生ばかりの意見ではなく、受講している私たちの意見を聞いてみるようにしたらよいと思う。先生の話だけではつまらない。
- ・わかりやすいけれど、もっと生徒に呼びかけて、意見を聞いてやるとよいと思います。
- ・先生の意見だけを一方的に言うのではなくて、生徒や他の人の意見も聞いたり認めたりして欲しい。

④ 板書・要点不明

- ・黒板の字をきれいに書いて欲しいです。
- ・黒板の字がよく読めない。
- ・黒板をしっかり書いて欲しい。
- ・もう少しきちんと板書して欲しいと思いました。
- ・黒板に書くときに、もっとわかりやすく書いて欲しいです。
- ・板書といっても書くことがなかった。
- ・先生の言っていることも、本の内容そのままだったので、特別に書かなかった。
- ・ノートに写したところもあったけど、ほとんど教科書に線を引いたところだった。
- ・各項目ごとに重要な点、一番大切なところを言って欲しい。
- ・要点を言ってくれないと、テストのときどうやって勉強したらよいか分からない。
- ・テストの要点など、細かく教えて欲しい。
- ・板書をされないの、テストにどのように出題されるか分からなくて困る。
- ・テスト勉強をどうやったらよいか、わからない。
- ・テストの勉強をどのようにしたらよいか、わからない。
- ・黒板に何も書かないので、テストで何が出るのか、つかめなくて困っている。
- ・大切なところと、あまりそうでないところを、はっきりさせて欲しいです。

⑤ その他

- ・先生の言葉がよく聞き取れない。

- ・例などはわかりやすいけれど、自分の中で同調できないこともあった。はっきりはなして欲しい。
- ・わたしの考え方と合わないことが、半分以上あった。それでも覚えるべきですか。
- ・先生の育て方、しつけ方で息子がどういう大人になったのか話して欲しい。段階が大切だと思うけど、参考に結果を聞きたい。

【学生の要望に対する授業担当者としての回答】

最終回の記名調査終了後、前回の無記名調査の自由記述を読んだ感想として、学生の要望に対して、授業担当者としての回答を述べた。その主なものを記述しておこう。

① 「私語への注意などが不公平だ」について。

気楽に叱りつけているようだが、私語を注意するのは、心身共にかなり消耗し疲れることなのだ。だから、心身共に疲れていて、一言で学生が震え上がるほどのしかり方ができないときには、私語が気になっても、あきらめて、見逃したり、甘くなったりしている。だから、教師といえども、それほど規則的かつ一貫性を貫いて叱ることはできない。世の中、交通違反の取り締まりにみられるように、運不運がある。多少の不公平は、勘弁して欲しい。

② 「授業に笑いがなく、かたいから、居眠りしたくなる、笑いや息抜きのある授業を望む」について。

これは、「笑い」が君たちとずれているせいだと思う。僕が「笑うかな」と思ってしゃべっても、君たちはほとんど笑わない。また、君たちが笑い出したとき、なぜ笑ったのか僕に分からないときがある。40歳以上も年齢の差があるから、これはどうしようもないと思う。君たちの望む笑いのある楽しい授業など、とてもできない。世の中、楽しくなくても我慢して聞くべきことはある。その訓練も必要だ。

③ 「先生が一方向的にしゃべるのではなく、私たちの意見をもっと聞いて欲しい」について。

若い頃は、学生に発表させる授業もいろいろやってきた。今から25年ぐらい前から、講義ではそういうことはやめた。学生たちが自分で考えたり調べたりしなくなって、学生にしゃべらせても、そのときの思いつきを言うか、わかりません、知りません、というだけになってきた。

講義の授業は知識の伝達であって、意見の交換ではない。学生に意見を言わせても、授業にならないから、そういうことはやらない。そもそも、小中学校の授業で、やたらと手を挙げさせて、子どもにしゃべらせるだけで、きちんとした説明をしない先生がいるが、あれでは子どもの学力はつかない、無駄な時間を過ごすだけだ。

④ 「板書をきちんとして要点を書いてくれないとテスト勉強に困る」について。

幼稚園や保育園の先生になるのに、そんなことを言ってもらっては困る。子どもは先生に、ここが大事な要点だから、ここを世話してください、ここをわかってください、などといわない。先生

は、子どもの行動全体を見て、今この子どもに何が重要か、判断しなくてはならない。

私の本を読んで、授業を聞いていて、この先生は何を重要だと思っているか、どこが要点なのか、自分で見つける訓練をしてほしい。こうした授業の中でも、自分で要点を探す努力をすることが、子どもを見る力にもなるのだ。板書がきちんとしてないのだから、その中で、この先生は何をいいたいのか、考えながら黒板を見て欲しい。

授業中居眠りをしたり、ぼーっと聞いていて、あとは教えられた要点だけ覚えてテスト勉強しようという魂胆が気に入らない。勉強はテストのためにするのではない。

⑤ 「自分は悪くないのに全体に説教されるのは嫌だ」について。

自分は悪くない、と思うこと自体、間違っている。クラスの一員として、みんなを静かにさせるだけの力量がないのは、おしゃべりしている人と同罪だと思って良い。連帯責任を果たせない自分の力のなさを惨めに思うべきで、注意する教員の方が悪いとするのはおかしい。このようなような生き方では、一生、私はいつも正しいが、みんなが悪いのだ、と嘆いて暮らす生き方になるのではないか。そういう生き方は惨めだ。

なお、記名調査の自由記述は、無記名調査の後にやったためか、記述数はそれほど多くはなかった。その内容は、無記名の場合とほぼ同じ傾向であった。ただ、批判的意見がやや減少したようである。資料としては、整理したが、ここでは割愛する。

(10) まとめ

私の担当した2つの授業について、学生による授業評価の資料を概観してきた。ここで得られた私の授業に関する授業評価の主な知見をまとめておこう。

①授業に対する評価は、個別の項目に対して行っているというよりも、授業全体に対する好意度あるいは満足度を表している。教師の個々の行動を判断して評定したというよりも、授業担当の教師が好きか嫌いかという、教師への情緒的な反応ということができる。

②授業への興味関心の低い者は、授業について低い評価をし、関心の高い者は、授業に対しても高く評価する傾向があった。したがって、授業評価は、教師側の問題というよりも学生側の授業への態度を反映していると考えられる。

③記名と無記名を比較してみると、たいした違いはなく、ほぼ同じ様な評定値であった。

④自己評定と他者評定を比較してみると、従来の調査とほぼ同様の傾向が見られた。自分が認めたいことは、他者評定よりも自己評定の方が肯定的で、自分が認めたくないことはその逆になった。

⑤期末試験の成績との関係を見ると、授業満足度よりも学生の受講態度のほうが成績と関係があった。

⑥自由記述を並べて分類してみると、評定値ではわからない学生の要望などがわかった。

大学の授業の目標は、授業時間中に学生をいい気分にして、勉強しなくても単位を与えることではない。学生に基礎学力をつけることである。

そういう立場から、ここで得られた結果を見ると、最初に述べた授業評価への疑問は、ますます強化された。うっかりすると、授業評価は、勉強したくはないが単位が欲しい学生の我が儘を増長させ、真面目に教育しようとする教師の志気を失わせるものになりかねない。したがって、私個人としては、こうした形式の授業評価は、廃止したほうがよいと考えている。

現実には、授業評価は実施することになっているから、実施せざるを得ないが、ここで得られた知見から、授業評価に対して、若干の提案をしたい。

(1) 授業評価の項目は、その授業にふさわしい項目を使うべきである。したがって、授業担当者が自分の授業目標に照らし合わせて作成すべきである。ただし、全体としての情緒的反応に流れる傾向があるから、結果の解釈には、個別の項目をあまり気にしない方がよいかもしれない。

(2) 記名と無記名で評定値にあまり差が見られなかったから、授業評価において、学生の無責任な情緒的反応を少なくし、成績との関係を追跡できるように、授業評価は記名で行うべきである。

(3) 授業評価においては、評価項目の評定よりも、自由記述に重点をおいたほうが面白い。自由記述は、データベース等に学生の文章のまま書き出して、分類し並べてみると、案外学生の言い分が伝わってくる。

(4) 授業に対する最大の評価は、期末試験やレポートの成績であることを、常に念頭に置くべきである。

文 献

- 愛知教育大学自己評価委員会 1997 「授業アンケート」の調査結果について 教授会報告
岩井勇児 1996 行動の個人差についての自己評定と世間評定 愛知教育大学研究報告(教育科学),45,31-39.
岩井勇児 1997 行動の個人差の遺伝についての自己評定の検討 愛知教育大学研究報告(教育科学),46,47-56.
岩井勇児 1998 性格に関する遺伝観の検討 愛知教育大学研究報告(教育科学),47,59-65.
岩井勇児 1998 子どもと喜び悲しむ心理学 三恵社

調査EVT986GB

質問紙調査法の研究のために、無記名と記名を比較検討したので、最初に氏名を書いてください。

1年 ABC組 番 氏名 _____

「発達児童学Ⅰ」の授業について皆さんの意見をお聞きして、授業の改善の資料としたいと思います。成績には関係ありませんから、ありのまま、思ったとおり答えてください。

当てはまると思う数字を○で囲んでください。

I はじめに次の項目に答えてください。

- (1) あなたの入試はどれですか。
 - 1. ○○入試 2. ○○入試 3. ○○入試
 - 4. ○○入試 5. ○○入試
- (2) 本学への志望は
 - 1. 第一志望 2. 第二志望 3. 第三志望以下
- (3) 本学志望の理由をひとつ選んでください。
 - 1. ぜひ幼稚園・保育園の先生になりたい。
 - 2. 幼稚園・保育園の先生、一般企業のどちらでも就職できればよい。
 - 3. 一般の企業に就職したい。
 - 4. その他 ()
- (4) あなたの性格や適性から考えてみて、あなたは幼稚園・保育園の先生にむいていますか。
 - 5. むいている 4. どちらかといえばむいている。
 - 3. どちらともいえない
 - 2. どちらかといえばむいていない 1. むいていない
- (5) 本学を受験するために一番影響があったのは
 - 1. 自分で決めたこと
 - 2. 親や家族がすすめたこと
 - 3. 高校の進路指導
 - 4. その他 ()
- (6) 本学に入学したことに満足していますか。
 - 5. かなり満足している。
 - 4. まあまあ満足している。
 - 3. どちらともいえない。
 - 2. なんとなく不満足である。
 - 1. かなり不満足である。

II 下の授業に関連した記述があります。この授業を受講して、これらのことをどう思いますか。左側にわたしの回答を、右側には、クラスの多くの人たちの回答を予想して、数値で答えてください。

わたしは	クラスの多くの人たちは
5. そう思う	5. そう思うだろう
4. どちらかと言えばそう思う	4. どちらかと言えばそう思うだろう
3. どちらともいえない	3. どちらともいえないだろう
2. あまりそう思わない	2. あまりそう思わないだろう
1. そうは思わない	1. そう思わないだろう

	1. 授業内容には興味がある。	
	2. 話し言葉は聞き易い	
	3. 授業は意欲的である。	
	4. 説明はわかりやすい。	
	5. 私語に厳しい。	
	6. 板書はわかりやすい。	
	7. テキストはわかりやすい。	
	8. 授業の開始時間は守る。	
	9. 欠席・遅刻に厳しい。	
	10. 授業の進み方は適切である。	
	11. 実践的で役立つ内容である。	
	12. 今までと違った考え方に気づいた。	
	13. 自分を見直す機会となった。	
	14. 全体として満足である。	
	15. 発達児童学Ⅰに関心があった。	
	16. 説明はよく聞いていた。	
	17. 私語をしなかった。	
	18. 居眠りしないようにした。	
	19. テキストの授業範囲外も読んでみた。	
	20. 板書はノートに写した。	
	21. 先生が話すこともノートにとった。	
	22. 遅刻しなかった。	
	23. 黙読のときテキストをまじめに読んだ。	
	24. 全体として、理解しやすい授業だった。	
	25. 予習・復習するように努力した。	

III 受講者としての反省があれば、自由に書いてください。

IV 授業の感想・要望があれば、自由に書いてください。